航西日記　卷之一

ヲ7
3267
1

航西日記

青淵漁夫
靄山樵者　同錄　全部六冊

明治四年
辛未發兌　耐寒同社藏

乘風

破浪

明治庚午初冬

門 ヲ7
號 3267
卷 1

早稲田大學図書館
昭 33.5.31 購
藏 書

航西日記叙

慶應丁卯余與靄山杉浦子基從我公使
使於泰西會法京巴里有博覽會五洲列
國與法締盟者各差王族貴胄以莅其會
或其君主有親自來觀者而我公使與焉
蓋法之此會踵於英昔年之舉而更恢其
規模洵曠世之偉觀足以震耀他邦也會
畢公使由歷瑞白荷伊英諸邦靄山有故

遂歸余終始從事而其所經歷各有所筆
累〻成冊矣東歸之後同移屋於不二山
下耕讀之餘對牀把臂出往日之記談往
日之事與夫西邦城邑之壯文物之盛以
至炎海雪山瀛舶錢路風俗景物出於意
想之外目眩而舌吐者共成一夢境而唯
此區〻冊子足以中於雲泥爪痕也乃有
合輯纂正之約無幾余辱　徵書霽山亦

先後出山王事鞅掌不能遂前約頃者大
藏卿伊達公傳聞慫恿上梓嗚呼吾濟所
記特身所歷已耳目不遍語言不通要是
漆桶若帰安足悉全象而世有未涉其境
者或因為卧游之資亦不為無益也然則
恧焉而藏之筐底寧如靦焉而公之世上
遂與霽山謀公退之餘挑燈纂輯以附剞
劂因思方今法與孝戰兵敗王降當時稱

雄鳴豫震耀他邦之蹟俯仰之間不可復
觀何其衰之忽諸哉讀此書者或有感於
此事則將有得於此書之外則吾儕所記
亦將不止於區区卧游之資也

明治三年庚午冬十月

青淵澁澤榮一識

凡例

斯編。我儕自聞ハ供そう為ゑ手録せし私記ゑ
ヨ交際公務を除くの外。凡遭際見聞そは真況
まて。途中風漂雨泊。郵亭旅館の狀ヨ宮室寺
觀。山水。林園の景を略記ゑ。其間從容探討せ有
倉卒經過せしあり。故ハ其景狀を收拾そる詳
略同ゑらず。其事實と採據そる。疎密齊しゑら
ぞ。到底所際と所見の寛但ハ從へバゑヨ
一帝王。謁見の禮典。交際ゑ例式。ヨ至ヨてハ其接
待の鄭重周旋の真率なる。我儕。隨從陪與。して

之を目擊せしと雖も船ゝ之を主掌せしふあらざる故ゝ其事を叙ゝや。公例ゝ准ずる循序。及文書贈答ハ類ゝ聘問往来辭令應酬等の事。姑らく之を闕略ゝ附し。關係なき尋常禮典の大概を錄存すのみ

一航海中。正午の測量ハ法國巴黎都府ゝ基の經度を算し。上陸場。各地の經度。英國綠威ゝ筆ゝ。海程ハ航海里法。陸程ハ法の里法を用ゆ

一叙事。行文の體裁一ならはゝ。爾時觸景隨筆ふゝ。自ら異ゝる所以ゝて。雅馴を要せず。富麗と務めず。惟其景況の天真を存ずゝを主とゝ。讀者。文字ハ蕪陋を咎むる勿れ

一各國の名。地名と記ゝ或漢字。或片仮名を以て。皆傍ふりを加へ。官名人名ハ一を加て。之を分つ。且原語の物名。熟字等ハ類ハ悉く片仮名を以て之を記して讀官ハ便ゝ

一新聞紙ハ。一時看過し了。故紙ハ屬ゝべき物なれども。其撮譯を挿記ゝるハ。其事由の曲折を發明すゝ而已ならず。歐洲。每事。傳播。の神速ふふと。人民論議の根柢あゝゝ代概見ゝ屢ゝふ

よ。之を附載せ。亦當時の景況を。想像するに足きり

一博覽會の如き。凡綱羅。臚列。せし。萬彙。其品類を枚舉をそ。累々數卷ふ。して足らば而。して其壯宏の規模。瑰偉。比景象を至まて。丹青の妙筆を倩ふも。猶其真を描寫し難し。況や我儕の庸墨陋筆を於てや。故に其會を列せる國名。及品類部分等の大要を記せ而已

一法の一フランクを。凡我銀十文目を。して。二十フランクに。一ナポレオンを。即我金三兩一分に當る。英のポンドに。我金四兩二分餘を。して。其二十分一を。一シルリングとを。即我銀十三文目五分餘を當る。其他各國の貨幣皆其價を異をそといえども。關係なをれば之を備ふせを

航西日記經過順目次

卷之一

楊子江（ヤンチーキヤン）　上海（シヤンハイ）　香港（ホンコン）
榮根（サイコン）　新嘉埠（シンカポウル）　錫蘭（セイロン）
亞丁（アデン）　西紅海

卷之二

蘇士（スエス）　該祿（カイロ）　亜歴散大（アレキサンドル）
墨西拿（メシナ）　撒丁（サルジニア）　歌尓西克（コルシカ）
馬塞里（マルセル）　視水底術　功牌（メダイ）
黎昂（リヨン）　佛都巴里（パリス）　養魚所

那破烈翁墳　夜茶會　佛帝謁見
風船　劇場（シバイ）　舞踏
凱弓（ルクトヨシ）　チユロリー宮　小舞踏
戰爭圖　テヤートルシヤツトルイ　シヤルクラン館
ホリテハム園　アツクリアタション園　埋地道

巻之三

競馬　巴里調練　魯帝危難
巴里新聞　病院　英國新聞
横濱新聞　博覽會　儲水

巻之四

博覽會褒賞　セイヌ河　博覽會新聞
獨樂　手品　ケリナニー新聞
足技　ヒカロ新聞　雜報

巻之五

那破烈翁誕辰　回歷初途　瑞西（スイツル）
說法所　伯尔尼（ベルン）　ツーン
蓄熊　日内瓦湖（ジユネイ）　メイトロホール
ハロンロウチーユル　ヌーシヤテル　ランヌ河
荷蘭　議事堂　荷王謁見
ルイスト（ルム）ダム　レイデン　荷王再謁

白耳義（ベルギイ）　火技　アンヘリス
劇場　シラアン　マリートヲワニエト
畋獵　調練　燕見
マストリウツク　サンミセール　伊太里
石細工　王謁見　別都（ミラン）
ヒイサ畋獵
巻之六
水軍調練　噴火山　瑪児太島（マルタ）
戍兵調練　的打　集議場
水師調練　英國　倫敦府

議政堂　王謁見　劇場
新聞紙局　ウーリツチ　調兵
大砲製造所（キリストルバンイス）　スリウス（ベリ子ス）
大砲打様　鉄臺場　貨幣局
海軍器械　セラゼス　狙撃船
海上試砲　三兵調練　浮梁
砲兵所

航西日記卷之一

青淵漁夫
靄山樵者

佐野常民
圖書之記

慶應三丁卯年正月十一日（西洋千八百六十七年二月十五日）朝七時。武藏國。久良岐郡。横濱港より。佛蘭西郵船（フランスノフネ）号へ乘組ミ。送別の友人など。本船まて来りしも多く。祝んごろに。名ごりらくを別をつけ。且此港ふ来住とる。諸州の人々は歸省をるもの多て。次第に乘組ミ。同九時ふ發ちり。是一萬里外。壯遊の皆途なり。折しも天晴。風和き。海上穩靜ゑて。伊豆七

島を淡霧中ゝ看過し。遠江。伊勢。志摩ふゞ。見えて夜に入る

同十二日（西洋二月十六日）　曉よる北風ふて。波高く。船動揺して過ず。午前九時。紀伊の大島を。右ゝ見る。午後一時頃。土佐ゝ地方ゝ望む。此船の社長なる。佛蘭西人クレイといふ者。篤實ふて。諸事懇切ふ。取扱簡便にて。事足る。且日耳曼の人。シイボルトと。いへハ。横濱に在しが。事充て、。本國へ歸省をして。乘組なるゝ。御國の語に通曉し。專ら通辯をなし。幸ひに便利を得たる

郵船中ふて。諸賄方の取扱極めて鄭重ふる。凡毎朝七時頃。乘組ゝ旅客盥漱ゝ濟しころ。ターブル（餐盤）ふて。茶を呑しむ。茶中必雪糖を和し。パン菓子を出す。又豕の塩漬ふどを出ス。ブールと云。牛の乳ゝ凝たる。パンへぬるて。食せしむ。味甚美なる。同十時頃ふ。いたる朝餐を食せしむ。器械すべて陶皿へ。銀匙并銀鉾庖丁等を添へ。菓子密柑葡萄梨子枇杷其他數種盤上ふ羅列し。隨意ふ裁制し。食せしめ。又葡萄酒へ水を和して飲しめ。魚鳥豚牛牝羊等の肉を烹

熟し。或ハ炙熟し。パンハ一食ハ二三片。適宜ハ任セ。食後カツフヘエーといふ豆ハ煎したる湯ハ出ル。砂糖。牛乳ハ和して之ハ飲む。頗る胸中ハ爽ハ。午後一時頃。又茶ハ呑しめ。菓類塩肉漬物等ハ出ス。大抵朝と同様ハて。又フイヨンといふ。獣肉。鶏肉などの煮汁ハ飲しむ。パンハ。熟帯の地ハ至れハ水ハ水ハ和して呑しむ。夕五時。或ハ六時頃。夕餐ハ出ル。朝餐ハ比ハ。それハ頗る鄭重ハ。凡肉汁ハ。魚肉の炙烹ハ。各種の料理と。山海ハ菓物。及びカステーラの類。或ハ糖もて製ハ。氷漿グラスヲクリームハ食せしむ。夜八九時頃。又茶ハ點し出ル。朝ハ夜まてハ。食ハ二度。茶ハ三度。常とし。其食ハ極めて寛裕ハ。旨とし。尤烟草ハど吸ハ禁ル。總て食事及び茶ハ。鐘ハ鳴らして其期ハ報ル。鳴鐘凡二度。初度ハ旅客ハ頓整し。再度ハ食盤ハ就しむ。常と若ハ不食ハ。疾病あれハ。醫ハして脍ハし。其症ハ随て。藥餌ハ加ハ。此等の微事ハ載ハ。贅語なれとも。微密丁寧。人生ハ養ハ厚き感ぞ

堪たゞ因て其畧伐茲に記載をゞ

夕方。英國郵船の先發して波間に馳行きる。影みえて夜に入ゞ雨風東に轉ず。昨日發船よゞ此日正午まで。三百里を航をゞ

同十三日西洋二月十七日　雨風西に轉じ午前十一時。土井个嵜日向を右手に見て。鹿兒島灣薩摩を過く。名に しおふ。海門嶽俗薩摩不二といふも煙霧中に鬱悶として。時々其一斑を望み。行々御國の影幽にして見えぶなをゆゝ。彼大船の纜きをはふちゆゝといえる如ゝ心雄々敷あゞなならゝ。いと余波れしきやうに思ゞる

同十四日西洋二月十八日　風烈しく雨細し。船の動揺甚しく折々風潮灑ぎ来ゞて早板を濕す或ハ窗よゞ各室に入れて器械なと覆ち餐盤に就く者稀なり終日室に入て枕藉して皆沈默をゞ楊子江の流末海面に注き黄色渺々たゞ此日二百八十里航をゞ

楊子江

同十五日西洋二月十九日　曇曉より楊子江に沂る此江海口に極く廣し河水濁々して黄綠色にして風濤洋中に異ならず凡四十里許湖ゞて左右に分流し右ハ楊子江本流にて左ハ

呉淞江といひて我淀河ふ倍する程なる布帆蒲
席の支那船遠ふ出没する
隨唐佳話ふ呉都松江鱸魚の膾を献ずと云所
謂晋の張翰ふ秋風ふ尊鱸を思ひし所ふらむ
流も分岐せる所向ふ岸を砲台の蹟草樹生茂る
故墨依然と存するのみ清の道光廿二年壬寅年
（我天保十三年西洋千八百四十二年）鴉片の亂ふ大臣陳化成の戦
死せしも此あたりなりといふ坐に感慨の情ふ
堪ずまず〳〵沂もハ兩岸楊柳の春を見て頭に雲々
村落の見ゆるもいと風情あり漸く帆檣の影林

上海

如く人烟の稠きを認め。なをも〳〵みて。午前十一
時頃。碇泊をなす。少為して支那人朱塗に魚眼を舳
ふ畫きたる小艇。舷。舷を来りて。乗合せ旅客に上
陸をすゝむ。其一隻を雇ふて上海港に上陸す。此
地（支那領なり。我横濱より海路千三十五里。通常捏六日に至る）午後三時。同所
ふ設たる英國の旅舍ふ上る。英佛其他の人々并ふ
本地の官人来りて。安着を賀し。英人郷導し。江に
傍ひ遊歩するに陪せる。江岸を外國人の館舎連
り。官邸ふハ其國々の旗を高く掲け。各自便地を
勢ひ為たり。其間に税館（運上所）あり。江海北關といふ

扁額を掛け。門を江ふ面し。浮波戸場ありて。家根を設け。鐵軌敷き。荷物陸揚の便利とも。稅務ハ運上の事務の近年西洋人を雇ひて。掌轄せしめしよ里。汎濫ふ遺利なく。舊来の弊を改め。歲入の數元倍滋し。凡一歲五百万弗ふいたれりといふ。我た五百万両

輸に當る物産の繁殖さる。東洋天然の寶庫にして。西洋人資て外府に充るなるべし。江岸ハ都て瓦斯燈を地中に石炭を焚き。其火光を所々へ取るもの。設け。電線を鉄線を張り旋し。越列機篤兒の氣力を以て。速効に傳信を傳ふる。もの。をいふ。施し。佳木を栽え。道路平坦ふて。稍歐風の一班を視る。夫より

一里許ふして城内に到る。城の周圍ハ瓦をゝて疊みたる塀ふて。郭門と思しき所に。兵器を鉾の類飾る。護兵といふ文字。衣の脊に印したる。兵卒行めて。其邊より辻賣の商人道路ふ食物器散物等を鬻く。市街ハ往来ハ道巾隘く。各廛二階造なれとも。簷低く。門狹し。各種招牌を掲け。戎い往来の上に横截して掛しもあり。牛豕鶏鶩諸飲餐の店見世先ふて烹賣せる。故各種の臭氣。混淆し。鼻を穿ち。路い石を敷き並たれとも。両頰の捨水汚湛し。乾く間なし。諸商人駕舁丐者など。声々小

呼て羣集の中を行通ふさま。厭べきに似たり。古玩書肆。画家ふどに至るを見れども。尋常の品なしうて。奇品なし。墨肆曹素功。并に査二妙堂にゆきて。筆墨など購ひしが。手拭を湯に浸し與へぬ。此ハ顔をぬぐへとの事にて。茶に代るもてなしふるべし。外諸店に至れども。烟草の火なく求めハ太き線香に點じて出とる。居民は富る者ハ多く。駕籠に乗て注来れ。貧しきものハ。衣服垢敝して。臭氣なるもの半に過たり。城隍廟に抵る。城中第一の香火の所と見ゆ。繪馬堂様の所あり。廟前の泉池に臨ミ八橋を架し。池心一介の堂あり。禮拜香花を供する帳。本邦に異ならず。社内に覩き見る物。突富賣ト錫笛曲藝などあるて。其家寄料理割烹店等あり。いづれも簷低く。暖簾を掲け。各客を迎へ。胡牀を借し。飲食を闔く。賓客此に羣飲。合餐を益。此日縁日ならむ。城外の市街ハ。寛濶にて。往来道路も廣く。朝々魚市。蔬市等立て。鯉鱸鰔塩鯛の類。廣東菜。五升芋。其他の野菜等をならべ。何れも秤目に挂て賣る。鯉鱸ハ三尺許なるも見ゆ。其もとを。江に傍ひて下り。一里餘。新大橋と唱

るあり。槁桁を揚卸して舟行碍なりらしめ。槁錢を取る。（槁ハ兼て。宿ふて切手と。賣る事なり）其より先ふ。英國客舍も在り。其裏通ふ續き。土民の市街軒を並べたり。此處にハ。青樓。（演劇）を有りて。（弦妓）樣のもおも見へ。月琴ふどの音も聞へ。雅致あり。此地高官の街衢。注来を兵卒從僕多く引率して。巡邏を。其行裝の整ハさる。衣服の粗なる。恰も兒戲ふひとし。此地佛國の教師。支那の風體となり。講堂を開き。教誘する者あり。亦歐人の支那學を研究する為め設し書院も有りて。都て歐人の東洋學を。修行する者。皆教法の人ふて。其國の教法ハ由来する所を推し究め。考證の資とし。且其教を弘めんとせるよ是。其宗旨の積金より。修行の入費を出さるよし。歐人の土人を使役する。牛馬を。驅逐するふ異ならす。皆呵責ふ棍を以て。我曹市中を遊歩するに。土人蟻集して往来を塞ぐ。各雜言して喧しきと。英佛の取締の兵来りて。追拂へハ潮の如く去り。少く休めハ。忽集る。其陋体厭ふべし。東洋名高き古國ふて。幅員の廣き。人民の多き。土地ハ肥饒産物の殷富なる。歐亞諸洲も固より及ハ

ざる所もいへり。然るに喬木の謂はみふて。世界開化の期ふ後れ。獨其國のみを第一とし。尊大自恣の風習あり。道光年來は瑕釁を啓き。更に開國の規模も立てず。唯兵威の敵し難きと。異類の測ら社ざるを恐ふ。の為ふて。尚旧政に因循し。日ふ貧弱ふ陥るや。思ふる。豈惜まさらむや。此夜鱸魚の鱸などあるて。生餐きる廣東菜。味殊ふ佳なる。始て水枕を免れ。陸地の眠を覺ふ

同十六日 西洋二月廿日 快晴。微暖。頗る春日の想をなし。此日交際ふ係る事故多く。其務ふ從事し。英佛東

洋ふ備る軍艦の提督并ふ。駐任の諸官人来りて。名刺を通し礼問を。本日い祝日なれい 日曜日也 西洋及ひ支那人共。幼稚。兒女。衣服なと粧ひ。遊歩踏歌を。まさ夜色蒼朗。月清く。海面鏡中の如く。眺望甚佳なり。月ふ乗して猶散歩を。此日各郷信を寄せ

同十七日 西洋二月廿一日 北緯三十一度十五分 東經百十九度九分 晴。午時上海を發を。吳淞江を下り。海口へ出つ。天氣清廓。江中波濤。穏ふして。両岸の眺望春景を呈を

同十八日 西洋二月廿二日 北緯二十八度十一分 東經百十九度三十二分 晴。昨の如し。船中釋渙の意をなし。江河の餘濁。海水を界

香港

一茫渺たる黄浪と蒼波。夕暉に映し。錦を布かゝ
し支那地方を西に見て。甲板上に夕陽を送る。此
日二百六十五里を航せ
同十九日　西洋二月廿三日北緯二十四度
十九分東経百十六度二十八分晴。なを
昨の如し。皆甲板上に散歩し。餐盤上にて圍碁将
棋の戯をなし。消光の助とせ。渡舟の地方に添て
東風に泛べる帆影の烟霞に暮もいとなし
同廿日　西洋二月廿四日　経緯を験せ晴。たゞ風穏にして朝
十時頃。香港に著ぬ。此地英領なり。上海より八百
海浬なり。波濤激して。暴し。北緯通常程四日。此間獅湾との
二十二度十七分まで。季候稍暑し。此地い廣東府

地先海中に在る一孤島にして。港内羣嶼繞環し
風濤を支へ。海底深くして多く船舶を碇泊せし
むるに足れり。平坦の地少く。山腰を截て道路を
設け。海岸に支那人の家居多く。山手に盡く歐人
の居なり。道光の戦後。講和の為に償金の外。割て
英國に附屬せし地なり。往昔は荒僻の一漁島なり
しに由なるか。英國は版圖に屬せしより山を開
き海を填め。磴道を造り石渠を通し。漸く烟稠密
貿易繁盛の一富境とはなりしとぞ。地圖に據
て考ふれば。潮州あたりに欲と思へる。唐の韓愈は

經魚の文あるしも。昔時ハ替ヱて牢固の巨船ハ乘し。萬里波濤を枕席とせる。其時代の境遇ハ異るより推せハ。世運日新ハ赴くなる。亦一瞬の間ハあるを知る。今英人の商業を東洋ハ擅にし。利益を得る。印度の所領ハ之るといへとも。其便利れ道を得て流融暢通運輸自在ならしめ。利柄を掌握し。通塞を專斷し。開合高低變化を計り。東洋貨力れ權を執る。其由る所なきハあらす。且土民の保護れ為め。海陸兵備を嚴ハし。其國の榮名と其利益とを謀る。規模の宏大なる。所見に就て知るへし。鎮台ハ全權れ大任ハて。威望ある者なり。近年此地ハ大審院を置。裁判の貴官を在留せし。東洋ハ分在をる。國民の訴訟を准理審判をといへヱ。山手の人家ハ歐風ハて。暑熱の地なれい水泉茂樹れ設け。簾幙胡牀れ備專ら夏月占涼の為めハ結構したり。英華書院其他各書院あり。造幣局新聞局講堂病院等盡く備ヱ。畧歐洲れ體を備へて微なる者といふ。英華文學上の書籍多く此地ハて刊行す。英人華學を修行をるもの皆勉強刻苦固より淺近ハあらを。其教法の由来をる

所を研究せるため。其學問の源委を考索し。其治體風俗より歴代沿革。政典律令ハ勿論日用文章まで精究し。其書を譯し。其說を著し。大事業を遂るもの。其人之しうらぞ。文明の素ある人心の精神ある學術の上ハ從事せるおと。乃國の强盛ハ。して。人智の英靈周密なる所ハ。を倣せるハ足れり。此地ハ最高嶺を太平山といふ。登る凡一里余ハして。嶺ハ旗棹あり。國旗を掲け。島嶼の錯置風帆の往來。望洋ハ籠遠迹一目ハ在ゑて。眺覽奇絶なる。山を下り花園を一見せ。園地土民。休暇遊息ハ花園設けたれハ。泉石花卉を陳。ハ雅致匠意を盡し遊覽の際。聊客愁を滌ぐへし。○本地より限日廣東へ赴く。瀛船あり。凡八時間ハ到るらし。又毎週刊行の香港新聞紙あり。漢文ふて一个年分。定價四弗ゑ。又香港通用の貨幣あ。○歐行ハ旅客此所より。籐冰籐席團扇。或ハ熱帯下を過るハ用ゆる帽子を買ふて避暑ハ用意せ。其他名産ハ白檀彫箱。象牙細工。蓮紙一種ハ画。楠箱。筬細工。支那絹張。仝摺扇等ふり。支那店ふい。文墨品あれとも。上海ハ比せれい。價貴し。郵船此港にて替

る。船は所泊一晝夜。又い二日程の規程なり。○都て歐洲ふ赴くに。横濱にて取替し銀錢を。此地ふて英貨ポントに取替へ。航海途中入用とそるをよしとそ

同廿一日　西洋三月廿五日　陰。朝来細雨。此地度數南ふ移るをいて暖映を催し。本邦の暮春ふひとし。此地ふ設け在る。造幣局を一見し。英國水師提督と尋問の為め其軍艦ふ到る。歸後佛國の士官来りて謝そ。午後三時。英國は囚獄を見る。其壮宏ふして。罪人は取扱ひたそへて軽重ふ應し。各器局ふ隨

職業を營しそ。且獄中ふ。説法場を建置き。時ゝ罪人を集ひ。説法を聽りしむ

此説法といえるい。善惡應報は道を説て。勸懲せしそ。罪人をして。後悔懺解なさしめ。總て惡を戒しそ。善ふ赴りしむるを專ら説なり。其中ふい前非を悔ひ。放心を取戻し。遂に本心ふ立歸る者ありといふ。其人員を減なるを憂ひ。死刑を恐るゝ。則皇天は意ふ順ひ生を愛し。民を重んそる道。懇篤切實なる感するふ堪たり

同廿二日　西洋二月廿六日　烟雨朦朧たり。交際上は事務

畢りて。郵船ふ託し。各郷信を寄せ。旅舎樓上眺望。新緑を催す。横濱より乗来りし船ハ此所ゆてふて。午前十時比。小艇ふて佛國の郵船（船号アンペラトリス）ふ乗替る。アルヘー船よりハ二層も大なる船ふて尤清潔ふ至。午時出帆せ。風順よして霎時ふ。支那南陲地方を背ふして航せ

同廿三日（西洋二月廿七日北緯十八度四十分東徑百。八度五十一分）晴。たふも東北風ふて真帆張て。船脚速なり。安南の南陲及ひ附屬ゑ小島を西南ふ見て。次第ふ熱帶下ふ近く。季候單衣ふ適ふ。此日二百七十八里を航せ

同廿四日（西洋二月廿八日北緯十三度五十五分東徑百。七度二十三分）晴。昨夜ふて暑甚しく。航せる南ふ移りしを覺ふ。本邦五六月の候ふひとし。俄ふ麻を着し。各甲板上の散歩快ふく。相集て。探題次韵なとして。遣興せ。此日三百里を航せ

同廿五日（西洋三月一日此日徑緯を測らは）晴。暑威弥強土用中の如し。乃是赤道近きなり。午時瀾滄江の入口。燈明臺の林ふ至る。夕四時比。東捕寨河口へ入て。上流ふ潮る此間兩岸緑樹繁茂し。根株水涯ふ浸し。樹樹尻尾長き猿の羣ふ遊ふを見る。川幅本邦墨田

川程ふり。往〻狹曲ふいさ迄ハ。船尾旋らさむ獨
戻りて過ぬ。岸ふ垂るゝ木くも手折べき程ふて
水底い極めて深しと見えて。舟行碍りなし。暮六
時頃。榮棍の港ふ着ぬ（此地安南。南隅瀕海の地。佛國領なり。香港より九百十五里。通常程。四日。緯度十度十七分ゝ在て。季候暑熱。土地肥饒。風俗。支那ゝ似て頗し）此地駐剳佛國總督の使者來りて。安着を賀す。此夜星斗燦然。銀漢低て叢裡の虫聲秋を報ず。季候の變ず
る。瞬息の間亦航行の迅速なる。旅客の感を增す
同廿六日（西洋三月三日）晴。朝七時。本地官船の迎ゝよりて陪從りて上陸す。矸泊の軍艦祝砲ありて。騎兵

半小隊。馬車前後を護し。鎮台の官邸ゝ抵る。席上奏樂ふ畢て。其本國の博覽會ふ摸擬せし。奇物珍品を雜集せる所を一見し。市街を遊覽し。午前十時頃。歸船し。夜鎮台の招待ゝよりて。官員會集して。猶奏樂をるを聽く○是ゝより先。佛國郵便を開く為め。經畫をる事あらむとて。教師を遣し。此地の形勢を測らしめたるを。土人憤怒し。其人を殺害せしより。竟ゝ戰爭となる。佛兵大ゝ土兵を攻擊し。内地ふ深入す。是ゝ因て和議を講し。地を割て罪を謝す。ふ來佛國所領となりし由。鎮府在て。重

官を駐め總轄せしめ。三兵の將官。及兵卒凡一万を駐劄せしゑ。不虞ふ備へて盛んゑ開拓建業の目的をなゑ。されとも兵燹の後ひまゑ。十年ゑも充さされハ。土地荒廢し。人烟稀疎。ふて全く休養。殷富ふいさらゑ。且土民反覆測り難く動もれハ。粛合作乱し。来襲ゑるあり。故ゑ佛兵常ゑ戒心ありて。兵額を減ゑるなしと云。各國。船舶も僅ふ四五艘所泊せるのみゑて。商店も少し專ら土地を修繕し。既ふ製鉄所。學校。病院。造船場。等を設け。東洋根據の要領とゑふし。大ふ他日の遠圖をなゑ。

されとも一歳の収税額。僅ふ三百万フングふ過ゑ年ゑ入費多く得失償ひつゑき故。本國。議事院の論も區ゑ也と云○此港東捕寨口ゑ泝る凡半日程。里數六十里なゑといへとも。其水底深き所凡四十五尺許なれハ。運轉ゑるゑ碍ゑなしと云。上陸場ハ平岸ゑて。船ゑ中流ふ御碇し。小艇ふて上る。土俗貧陋ふて。婦女子。男工ふ代り。垢面。蓬髪ふて。舟を艣又。荷物等を運ひて。生活ゑ。熱帯の地ゆへ。沙塵飛揚し。遊歩も懶く。名勝の探るべき佳地もふし。鎮府ハ江濱より。八九丁隔ゑ。一ケの

樹林清茂の地ゟ在り。劇場妓院もありて。支那と同風なり。追く歐人移住せるものありて。人員も増せりと云。案内の者を雇ふて。椰林（椰子樹ハ椰子ノ大ニ高キ木）蕉樹の間を行き。一の曠敞の地ゟいさる。象奴（象獣をよく遣ものを云）二象ふ跨り来りて伎藝せんとこふ。命して其伎を見る。二象を鞭撻し跪坐せしめ。或ハ突立（ツキタツ）せしめ。おのれ上下超乗（チヤウジヤウ）などして。自在を示し。ゆゑて木立ある所ゟ至り。一合把（ツカ）の木を鼻ふ挂て拉折（ヒシギ）せしめ。我徒乗らむといへば。又撻て跪らしめ。其後跚（アトアシ）りて上りて。其背上ゟ跨るふ。亦

自在なり。此辺両岸をべて。荊棘（バラ）のとき樹木茂りて。處く虫の鳴き。田畝ゟてハ農夫の熟稻（イイナ）を穫など。時候の異る感をへし。田畝ハ米穀二度の作地ゟて。所謂安南米是なり。東洋諸國へ運搬（ハコビ）售賣（ウリ）して利益をなを。金銀貨幣を傳来して。所持をるもの多し。○土産。郵船ふ持来りて賣る。蒲葵の團扇筇笠等なり又馬車を雇ふて。商綸（ブルジヤウリン）といふ古市（フルキイチバ）ふ到る。此港ゟり凡二里程もゆるぬへし。往昔ハ繁華の地と見えて。巨閣高廊（ヒロクタカキロウ）の頽廢（タイハイ）せしあり市中一个の大社あり。聖母殿と漢字ふて書せし扁額

掲く。蓋し海神を祀るならむ。石碑。繪額など多く掛並へ両三の支那人居て祠の縁記様のものを賣る。依て筆話もて猶事由を問しが。了解せざりしや答辞なし。○可泊凡一夜半日ゐて發せ。英船ハ寄らざる所也

同廿七日西洋三月三日晴。午時發し。瀾滄江を下る。午後四時頃。川口なる燈明臺山の麓ふ至り是より水先案内の者を歸せ。次第ふ大洋ふ航せ。船脚速なり

同廿八日西洋三月四日北緯六度二十一分東徑百。三度五十六分晴。暑酷し風様旺ふひとし。白瓜を食し本邦真桑の類苦熱を凌く。

新嘉坡

此日二百四十七里を航せ

同廿九日西洋三月五日北緯一度四十五分東徑百。二度十三分晴。暑風順なり朝二个島を右手ふ見る。午時漸く地方近く航し。午後二時。新嘉埠燈明臺を過る燈明臺ハ。海中の突起せる岩上へ造立て堅固ふして。他ふ超へ高く聳へたる者し也夕五時新嘉埠へ着きぬ。此日二百九十一里を航せ

二月朔日西洋三月六日晴。朝六時上陸せ。栄根より六百三十七里。通常程三日麻剌加蘇門答剌。どを。左右ふして。東洋第一の海隅なり。亜細亜大地より海中へ長蛇のごく。

突出し。北緯一度十七分ゝ在りて暑。酷烈といへとも。樹林鬱茂の地多く。清蔭快涼をトし時々驟雨来りて煩熱を滌く。土地赭沙ゝて港景寓稼穡の地も見えず。雜卉野草。路傍ゝ蔓延し。彩禽文羽。其間ゝ嬌柔宛轉せり。土人の風俗。安南と同し。裸跣のもの多し。市街も亦同様なり。英領ゝ属せ。年記未詳埠頭の修營ゝり。石炭の置場。電線の設け。馬車の備へ在て。總て人工を用ひ功績も見えて。英國の志を東洋ゝ逞まる素あるを見るゝ足きり。

○灣口。恰も園池の如く。島嶼。數ケ環列し。綠樹其上ゝ葱籠として。園丁意匠を勞し營築せるゝ似ゝり。瀛船此處ゝ至れハ。灣を通し。廣き所ゝ至り。船を回轉し。幾船の便利して。可泊を。浮波戸場ゝ船を着け。槁を架し。上陸を。海岸を。石炭倉のをゝて。居民なし。水ゝ臨みて亭舍數箇あり。蓋歐人の。盛夏遊息の為め。設けしなるべし。○馬車を雇ひて。市府ゝ至る。港より凡一里余。雜卉汗沼ゝ沿ひて。径路あり。府下ゝ歐人土人とも雜居して。諸物を販ぐ。價極て不廉なり。歐羅巴と号せる。客舍ゝ一泊を。此地第一の旅亭也といふ。市外數武ゝ花

園あり。小山を形とり修造し。百卉千草を植並へ。遠近眺望の趣をなし。園中泉池もありて。炎暑煩襟を清くし。客思鬱懐を慰む○土産。藤蓆。策杖。アンペラ。其外文禽。或ハ最小の猿。なと持来り争ひて旅客に商ふ。亦歐洲各種の貨幣を持来り。郵船碇泊の間。浮波戸場ふ風呂敷をしき。其上に開きて。両替も。中ふい廃もあり。又古貨幣の雅なるも見えさり。倆体の小児小艇ふ乗り船側ふ群り。勧め銭を投けしめ。海中に入て拾ひ来る。銅幣ふて八。水中認りさしとて。銀貨ふあらさ程ハ跳入せむ。本邦の江島。途中抓の如し。又生情態更に異らさ其水中に争ふ亀の子の如く。又海上競渡の真似して其先を争ふ。迅速なる矢の如し○此地より。小哇扱隊此へ赴く旅客ハ上陸して。郵船定日の期限を俟合せ。○午後四時。佛國の罰士。夫婦ふて来り。送別せ。各郷信を認め郵便に屬江。同五時發せ

同二日　西洋三月七日北緯二度東経九十八度四十二分　晴。暁来順風。暑氣凌きよし。右手小麻剌加地方を見る。昨日より。旅客増して。船中混雑し。甲板上遊歩も自在ならぎ。此日百九十九里を航せ

同三日　西洋三月八日北緯五度三十二分東徑九十五度十四分　晴。々ふも軟風。暑氣前日ふ層ひ。安南地方をゆき過ぬ。望中一点のものを見ひ

同四日　西洋三月九日北緯五度五十四分東徑九十度十分　晴。昨日こゝ。聊り暑を減ひ。航路熱帶。風濤。舌寧ふ〳〵て無事。互ふ長日を惜ミ。課を立て。洋學を講せるを興とを

同五日　西洋三月十日北緯七度〇七分東徑八十五度〇八分　晴。昨夜蒸氣器械少損せしゝ。夜三時頃〳〵。航行をゝゞめ。洋中ふ碇泊し。同五時頃整ひぬとて發せ。漸く印度洋正中ふ抵り。四顧毫碧も。眸中ふ入ものなし。

錫蘭

只波間ふ飛魚の游跳せるを見る

同六日　西洋三月十一日北緯六度十六分東徑八十一度三十一分　晴。今曉四時頃。器械ます〳〵損しぬとて。洋中ふ投碇せり。漸整ひ。風順ふ〳〵て航せる甚疾く。兩度の碇泊の間を償ふ。

同七日　西洋三月十二日　朝七時比錫蘭島の内ホアントゞガールへ着きぬ。新嘉埠より千五百四里。通常徑七日船中ふて朝餐し。午前十一時上陸せ。オリヤンタルといふ旅舍ふ投せ。少焉して。此地の官人来りて安着を賀せ。此地印度の屬島ふて。洋中挺立し。港ハ北緯

六度一分ふ在て。土地熱帯ゑ近く。終歳氷霜なく。四時木落を見ず。赤壌沙泥ゑして。肥沃なり。土民貪瘠。支那人とハ。骨相異り。聊ゝ順良。勉力。の風あり。蓋久しく歐人ふ役使せらゐ故なりといふ。其体。披髪。倮跣。腰間。僅ふ更紗木綿もて掩ふ。色黄黑ふて。深目黑齒赤脣なり。下民。平生烟草を買い得さるものハ檳榔を齒して。吸烟ふ換る。故ゑ自ら齒黑くして鉄漿を衒むふ似さり男女とも頭ゑ丸き櫛を挿ゝ毛髪を束ね。焙ハ葡萄牙領ゑて。在しを。荷蘭ふり攻取り。爾後竟ゑ英國の所領といなりて。港口。城門上ふ。西獅金冠を捧けさる荷蘭の標記。今尚存せり。港口。岩石あり。潮波激揚し、上陸甚難し。土人狹小の艇へ。一方ふ杙もて椿とし釣合ハせし一種の舟もて上陸せしめ。波戸場木造の小屋ゑて。直ふ城門ふ續く。門中砲卒守衛ゐ。夫より少し高き所ふ上りて。市街あり。海岸ハ平べて砲台を建回し。砲門を設け。火藥庫もあり。製造古様ゑて。荷蘭領の比。築きしものと思ゐる。海岸西の方ゑ燈明臺ゆり。鉄造ゑて高さ六十フートといふ我九曲尺八丈余海門。庶務ハクーフルヌマン工

イシュレといへる役ゐて。掌どる。土地熱帯なれハ。亭榭をべて避暑の工夫せり結構なり。産物多し。就中菓物佳品魚類の鮮ふて食料頗る芳美なり。綾櫚。芭蕉の實。黄橙。檸檬。桂枝。甘蔗。等良好なり。カレイとて。胡椒を加へさる鶏の黄汁ハ。桂枝の葉を入るものを。亦名物とき。〇馬車を雇ひ。三里ばかり山手ふ。遊ふ。平岡曲折して。椰林茂り其間ふハ。水田ふ秧を植むを見る。亦。水芋。蓮。等青〻と浮べり。山ゐ登ゐ五六丁ゐて。一个の佛寺ふ抵る。寺名ボーカハウアといふ。山門あり。門ふ入れハ。

正面本堂ハ鎖して。常ふ開かぬ。僧ふ請ふて開かしむ。堂内安置せる釋迦涅槃の像セヤールトあり。我九曲尺二丈一尺余磁製なり。全体黄色額ハ白毫なり。合掌側卧胸ゐり下ハ衣もて掩ひ。衣鱗状をあし。堂の側。僧房。廣宇。ゐな天堂。地獄の圖を画けり。僧衣ハ袈裟のゐなして。跣足。禿頭眉毛を剃去り。香を奠し。花を供し。合掌。誦經の音。畧禅なり。山の後。即佛骨を收し所ゆ至といえり。三層ふ築き。石壇を繞らし。中ハ一樹を栽さり。即菩提樹ハて。外ハ物なし。又一所ハ至れハ。山頂ハて。眺望。佳絶。小亭を

構へ。三鞭酒なと。備えて驚く。此山上ハ。一螺青山の雲間ヨ見ゆるあり。即靈鷲山なりといふ。歸り来り午餐ヲ就く給仕人ヲ見れ倮體黒身。下部を布もて掩へるのミ。甚ミ厭ふべく夜ヲ入り。微涼ヨ乘し。市中を遊歩ス。土人の家屋。新嘉埠ヨ畧同し。貧陋。猥雜。の景況徵ぶべし。○島産。各色の宝石。皆指環へ嵌入して賣る。又泡玉珊瑚。真珠ヲあり。價製多々れば。漫ヨ信しゝさし。象牙。象骨。の細工物。椰子。烏木。蝟毛。籐細工。各種木の看木。鼈甲細工。貝類。文彩。の小鳥の各種を。旅亭の戸前ヲ持来て。爭ひ勸む。其細工物ハ。皆歐人の所用とする。爲ヲ製る也○貝多羅経の古きハ。漆塗。金字。ヲして尋常なるも。皆鉄筆ヲて。貝多羅葉ヨ書せしものなり。中央ヲ孔あり。紐ヲ貫もて綴さり。其字体梵とも異なり。一流の体ヨて。鮮行ヨ記せり○此港ハ。三方海ヨして僅ヨ。一方築出せし。洲崎のミヨて。大洋の吹返しを支ゆるヨ足らされハ。可泊間り狹り強く。船動揺して。甚ヨきハ器物を破毀するヨ至る。加尓佶多。孟買麻都羅斯。孟智世利。等へ赴く旅客ハミな此港ヨり。限日の船便ありて。發ス。季

侯稍暑し。

同八日 西洋三月十三日 晴。朝八時發ス。暑威昨日より弥増し。眩暈をる計なり。午後一時。洋中鮫魚。の數頭波間ふ跳躍をるを看る。本州ふ鮫ハ南海ふ産し。鼈ふ似て。足なく尾あり といふ。其言の如し夕三時。驟雨来りて。少爲ふして。海上。一圍の黝雲起り。忽地空中瞰黮として。俄然低回し波濤ふ相接し。潮浪を捲揚る。陸地の驀風の颯揚をる如く。其響ありて。さながら龍腥を挾む勢ひあり。俗ふ。所謂龍捲なりとて。衆人。奇観の想をなせり。

同九日 西洋三月十四日 北緯七度十分 東経七十三度二十九分 晴。昨雨ふて。暑氣稍減じ。此日二百六十七里を航し。

同十日 西洋三月十五日 北緯八度四分 東経六十九度十八分 晴。朝五時。海馬。の波間ふ浮ふを看る。海馬い魚なり。と字通ふ見えたり。牙胃。堅堂。文理。細く糸のごとし。俗ふ馬の股ふ焔火を帯ひ。波上を飛跳をる。画圖といへ大ふ異なり 此日二百五十五里を航し。

同十一日 西洋三月十六日 北緯九度 東経六十四度四十五分 晴。始て午餐ふ西瓜を食し。味淡ふして甘味少し。此日二百七十五里を航し。

同十二日 西洋三月十七日 北緯十度十五分 東経六十度六分 晴。此日二百

八十四里を航す。

同十三日 西洋三月十八日北緯十一度三分東経五十五度二十七分 晴。此日。二百八十二里を航す。

同十四日 西洋三月十九日北緯十一度五十一分東経五十度四十分 晴。午前より。亜剌比亜地方の。島嶼を過る。夕帆前船を逐ふ認る。此日二百八十八里を航す。

同十五日 西洋三月二十日北緯十二度二十九分東経四十五度五十二分 晴。夕五時。紅海ふ向ふ。時〻島嶼出没す。鯨魚洋中ふ浮ぶ。此日二百九十里を航す。

同十六日 西洋三月廿一日 陰朝六時。亜丁ふ抵る。此地英領なり。

錫蘭より。二千百三十五里通常程十一日亜剌比亜。南陬の一埠ふ。て。西紅海の入口なり。北緯十二度四十六分ふ在て。土地赭磧(アカキカハラ)ふて山ふ樹草なく。地ふ潤澤なし。磽瘠(ヤセテ)薄の地なり。人民い。即亜剌比亜人種ふて。印度ふ比す。性ふ強壮ふして品格又陋し。英の官吏在留して。管轄す。港口ふ二个の砲台あり。欧洲。各部の留士(コンシュル)も在留せり。此地。開拓の利。産物の益なしといえども。東上。西下航海の便を開き。万里運輸の自在を得れハ。英人の力を盡し。財を費し。不毛懸絶の瘠地ふも。其國旗を掲け。管領せるなり。

東洋の商業を盛大ふし。支那。印度の領地を羈縻
する規模を見るよ足れり。上陸して海岸ゑ在る。
客舎ふ入るは。馬車乗馬とも。店前ふ来り衝む。即
一車を倩ひ市中を看る。海岸の細路。屈曲ふして。
山ふ傍ひ半里余よりて。漸く磴道ふ登る。城門。山
腰を截て。左右石壁聳へて。要所ふ大砲を備へ歩卒。
守衛せり。切通しの上十丈許ふ。橋梁を架し要害
の往来とを。道巾僅よ両車を容るよ足る。稍〻下り
て。平坦の市街よ至る。人家。石室ゆとも。孔陋狹よ
して。茅茨頽屋半よ過き。人烟甚蕭條さり。歐人在

水溜

留官員の舎屋い皆海岸の山手ふ在り。市街を過
き。水囲場よ至る。此地水泉よ乏しく。雨澤なき時
の為め。闔境の飲料を貯へ。分配を奇嶂怪巖の間。
幽澗深渓を造築し。周圍塗るふ白堊をもてし。舗
ふ青石を以き。其傍磴道盤旋し。石梁を架し。石欄
を繞らし。上ハ峯勢聳へ。下ハ潭心深く。茶亭花園
も。其間〻ふ在りて。登臨勝致。の一个の仮山水さ
り。澗底い管を通して平地よ達せしめ。汲取場あ
り。豕皮よ汲ゑ入き駱駝。又ハ驢ふ員しめて。数里
外よ送り。各所ふ分つ。人生。瘠土。生活の難き。飲水

も容易ならざるより。人力勉強せざるを得ず。肥瘠土地の異る。民の苦樂の相反せる。想ひ見るへし。肥沃樂地ハ生活。遊惰宴安ハ逸し。終身人間。如斯地あるをおらざる。嗚呼幸といふへき歟。將不幸といをん歟。知る是所謂瘠土の民い勤儉ハ基なり。肥沃の民い遊惰ハして。柔弱事あれい我て剛勁。事あれい。我ハ就や軽し。即富國強兵の根ハ就くや難し。即亡國逃逋の根柢なり豈ちらさらむや。土人羊を牧するを業とし。貢載多らい。駱駝を用ゆ○土産。駝鳥の羽。歐洲婦女子の帽子の飾りハ用ゆ。鬼

卵。豹皮。木彫七。蒲萄の園扇。石鑵等なり。旅客あれハ携来りて之を鬻く。但錢を乞ひ價を貪る甚し。上陸の時心を用ゆべし。○此地より。蘇士までの海上を紅海と唱へ。北ハ亜剌比亜。南ハ亜弗利加なり。海上ハ皆隠顕。出沒せり。両地方とも山ハ何ものも樹草なく。赭色海面ハ映し。船行勢ひあれとも。風を生せず。水ハ油の如く漲りて。動かず。熱蒸の氣強く。自然海面赤光を帯ふ。紅海の名空しからず。就中五六月頃ハ。酷烈を極め。病者等。其候を犯し。船をれい。必損するといふ。我俗の船せし。

我二月又六月九月より在り。其六月より甚りしい。暑熱聞う如し。困耗。疲勞。不寐。連夜より及へり。牛羊も終夜喘ぎる止を。歐人の此海上を呼て鬼門關と唱へ怖るゝ人を欺うぎ。夕三時より發を。此日郵便小因て郷書を寄を。

同十七日　西洋三月廿二日北緯十五度。五分東経三十九度五十一分　晴。朝。亜弗利加洲。北邊の島嶼を。西方より見る。此日二百六十六里を航を。

同十八日　西洋三月廿三日北緯十八度五十八分東経三十七度。四分　晴。緯度漸く北より移ゞ。次第より暑氣を減を。暑流火

徂暑の候より。此日二百六十八里を航を。

同十九日　西洋三月廿四日北緯二十二度五十八分東経三十四度五十五分　晴。朝より西北風強く起り。船動揺を。同九時頃より弥烈く怒浪。銀山の如く。甲板上より打揚る。夕五時漸風る伊太里亜船の東洋へ航をるより遭ふ。此日二百六十八里を航を。

同廿日　西洋三月廿五日北緯二十六度三十二分東経三十二度四十七分　晴。昨日より一層暑を減を。夕四時佛國郵船の東洋より航をるを見る。亜弗利加。亜剌比亜の地方を。左右より見る。此日二百五十里を航を。

U21583

航西日記卷之一